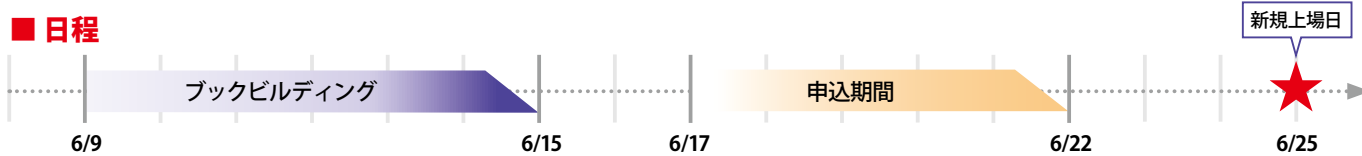


IPO銘柄 富士ダイス (6167・東証2部)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹証券
6167	100株	公募: 441.50万株 売出: 0.00万株 (OA66.20万株)	500円~530円 (12.0倍)	野村証券



超硬合金を用いた耐摩耗工具を一貫生産

■ 事業内容

超硬合金を用いた耐摩耗工具が主力。顧客本位の直販方式と研究開発、製品製造、検査までを一貫生産で手掛ける。耐摩耗工具は製造加工用装置に装着し、切りくずの出ない塑性加工に使用。部品や製品の材料となる線材や棒、パイプを引き抜き、押し出し加工することで寸法や硬さ、強度を決めるために用いるダイス、プラグや自動車部品生産用金型、製缶金型、原料を焼結して超硬合金とした塑性加工用の工具、金型の素材である超硬合金チップなどが主力製品。また、超硬合金の精密加工で培った加工技術を生かした鋼製品も手掛ける。耐摩耗工具関連事業の単一セグメント。

■ 特徴

用途は輸送用機器や鉄鋼、非鉄金属・金属製品などが多く、その他に電機・電子部品や生産・業務用機器など幅広い産業。自動車では、エンジンやトランスミッション、ステアリング、クリーンエネルギーシステム、サスペンションなどの金型に使用されている。国内17カ所、アジア5カ所の営業拠点を有し、約100名の営業担当を配置。生産は国内12カ所、海外2カ所に拠点を設けている。

アナリストコメント

■ 定量分析

16年3月期の連結経常利益は前期比6.3%増の12億100万円を計画する。自動車部品生産用のダイス、プラグが好調で、超硬工具でも自動車部品用金型の需要が増加している。急成長は見込みにくい、堅実な増収増益基調を続けており、業績面の安定感が高い。

■ 定性分析

IPOマーケットで人気化しづらい東証2部への上場案件であり、ビジネスモデルも高成長期待を抱かせるような内容ではない。6月25日が3社同日上場であることもあり、注目度は相対的にも低くなってしまふ。初値上昇よりも初値形成後に妙味があるタイプだろう。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は27億円程度。同規模での東証2部上場案件の多くが公開価格割れ発進となっていることから、荷もたれ感が意識されてしまふそう。ベンチャーキャピタル保有株などはなく、公開株式以外の株券が市場に流通する可能性は低い。
(小泉健太)

■ 類似企業

富士ダイス(6167・東証2部)	予想PER12.0倍 (仮条件上限)
ダイジェット工業(6138・東証1部)	予想PER16.1倍
日進工具(6157・JASDAQ)	予想PER13.5倍

■ 引受証券

野村証券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、みずほ証券、SMBC日興証券、SMBCフレンド証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
14年3月期(実績)	15,041	2.8	1,088	34.2	732	26.6	38.1	11.0
15年3月期(実績)	16,251	8.0	1,130	3.9	767	4.8	38.7	19.2
16年3月期(会社予想)	16,897	4.0	1,201	6.3	880	14.8	44.0	22.0

※ 15年1月に株式分割(1株→100株)を実施。14年3月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
13年3月期	192,000	22,118	15,916	96	829.0	72.0	3.7
14年3月期	192,000	22,725	16,710	96	870.3	73.5	4.5

※ 13年3月期および14年3月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	富士ダイス社員持株会	3,657,900	18.29
2	TSK	3,215,000	16.08
3	木下 美佐子	2,295,800	11.48
4	新庄 美智子	2,280,800	11.40
5	新庄 由美子	2,275,800	11.38
6	矢作 玲子	2,130,200	10.65
7	新庄 敦子	855,000	4.28
8	木下 徳彦	249,300	1.25
9	矢作 恒雄	142,500	0.71

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	木下 徳彦
代表取締役副社長 営業本部長	西嶋 守男
専務取締役 社長補佐	長野 秀之助
常務取締役 業務本部長	井出 剛
取締役 生産本部長	久保井 恒之
取締役 技術開発本部長	千葉 理彦
取締役	本多 實
常勤監査役	茨木 登
監査役	岸田 一男
監査役	大森 実

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。